

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスすてら			
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		～	令和7年3月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 人	(回答者数)	11 人
○従業者評価実施期間	令和7年2月24日		～	令和7年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 人	(回答者数)	6 人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多種多様な活動内容	戸外活動（公園遊び、散策、水遊びや雪遊び等）を中心に、季節や自然を感じることでできる活動を行っています。また、買い物学習や電車乗車などの社会体験や施設見学、安全教室なども行っています。 庭の菜園で野菜を育て収穫したものでクッキングをするなど、月1回の食育活動も行っています。	戸外活動は天候・気候に左右されるため、代替案も準備しながら柔軟に対応していきたいと考えています。 子ども達の興味・関心にアンテナを張り、楽しいと感じる活動を通して社会性や生活力（生きる力）が身に付くよう取り組んで行きたいと考えています。
2	家族支援	すてらの参観日やくだもの狩り等、年に数回の親子参加（参観）行事を実施して、子ども達の活動の様子を見る機会やご家族同士の交流の機会にさせていただいています。また、餅つきやクリスマス会は、保護者様にも調理等を快くお手伝いいただくなど、協力体制ができているものと感謝しています。 送迎時には必ず児発管か児童指導員が出向き、その日の活動の様子や成長をお伝えすると共に、ご家庭での様子を聞いたり保護者様の相談を受ける体制を整えています。	親子参加行事は、保護者様に「参加して良かった」「楽しかった」と思っていただけるよう、今後も創意工夫しながら定期的に行っていききたいと考えています。 これからも気軽に相談できる場所・人であるよう、ご家族との信頼関係を形成していきたいと思います。
3	余暇活動の充実	土曜日営業時や長期休暇には、プール学習や体験学習、電車旅、のど自慢（カラオケ）、スノーアクティビティ体験などアクティブな活動を企画して余暇活動の充実を図っています。 七夕祭りやハロウィンパーティーなどは、子ども達を主体に準備から一緒に作り上げています。	人気の活動は今後も継続しながら、子ども達が主体的に活動できる新しい企画を立案していきたいと考えています。 令和7年度は、初の「お泊り会」を行う予定です。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置	直接支援職員は基準人員（2名）＋1名を常勤で配置していますが、より充実した支援を行うには不足していると感じています。また、年齢の高い男子児童の排泄介助も（保護者様の同意の下）女性職員で対応しているため、男性職員を配置できると良いと感じています。	現在、パート職員の募集を行っていますが、採用にあたっては慎重に検討して参りたいと考えています。 対応策として送迎員をパート雇用し、サービス提供時間の職員の確保と送迎時の安全を担保しています。
2	活動スペースの区切りがない	活動室の広さは施設基準を十分満たしてはいるが、体を動かす活動の時には若干狭いように感じています。また、より良い環境設定を心掛けてはいますが、一人で集中して取り組みたい個別の活動時にも別の活動をしている他の児童が行き来する部屋の一角で行っており、集中力を欠いてしまうことがある様子です。	代替案として卓上のパーティション等を使用して目線を遮る等の対応をしています。また、現在一名分の個別ブースを設置するための準備を進めています。 子ども達は様々な環境（人・物・自然・社会等）によって刺激を受け成長・発達していくものと考えており、より良い環境を提供できるよう努めて参ります。
3	地域の子ども達や他の事業所との繋がりが希薄	当事業所は8割程が特別支援学校の児童で市立学校に通っている児童に関してもスクールと併用利用しているケースがないため交流機会を作るのが難しい状況です。また、他の放デイとの交流機会に関しては、お互いの事業所に通う児童の一人ひとりの特性に配慮しながら慎重に検討していきたいと考えています。	事業所が立地している学区から通っている児童は極少数で、大半が他の地域の児童のため特定のスクールとの交流は現状難しいと考えています。 社会体験や見学、まち「ピカ」活動等の地域活動、イベント等への出店などに積極的に参加して社会との繋がりを形成していきたいと考えています。